

## 一般質問

# 市の明日を考える!

12月定例会の一般質問は、12月8日から11日の4日間にわたり19人の議員が登壇し、活発な議論が展開されました。

主な質問について、各議員から寄せられた原稿を原文のまま掲載します。

[発言順]

### 石井 馨

[あぶくま会]



- ① 除染について
- ② 有害鳥獣対策について

### 問

- ① ①住宅除染の進捗状況は。  
  
②除染実施世帯、とりわけ子育て世帯の方の不安解消のための意見聴取の場が必要では。
- ② ①イノシシ対策について恒常的対策をとる必要から専門の部署を設置しては。  
②イノシシ他の有害鳥獣の捕獲について基準の見直しが必要では。

### 答

- ① ①11月末現在、13,446世帯の除染完了、71%の実施率。仕上げの7期対策を発注済み。  
②放射線管理を徹底し、保健センター等に相談していただけるよう周知していきたい。
- ② ①鳥獣被害対策実施隊が年間を通じて関係団体と連携して活動しており、当面、設置は考えていない。  
②捕獲の許可に関する基準は国の法律に定められており、基準の見直しの詳細についてはまだ示されていないので推移を見守りたい。

### 加藤 建也

[市政刷新会議]



- ① 市長の一年を振り返っての政治姿勢・政治活動について
- ② 高齢者温泉等保養健康増進事業について

### 問

- ① 今までに職員からどのような政策の提言がなされ、政策が組み入れられたのか。現在どのような政策を実施し、その成果は。それを継続するには具体的にどのように取り組まれるのか。
- ② 温泉宿泊券以外にも選択できる新規事業を検討すべきでは。市民の声、要望を真摯に聞く姿勢はあるのか。1,054名の市民からいただいたアンケート結果の当局の感想は。

### 答

- ① 月2回の政策会議を開催しテーマを決めて検討チームを設け協議している。これまでの成果として、除雪機の購入など冬の対策を講じたこと、緊急情報メールサービスの開始、「mamaになるならにほんまつ」のチラシ作成など。新年度の予算編成に向け、人口減少対策に取り組む。
- ② 要望は認識しているが、本事業の目的達成には至らないと判断している。アンケート結果については、様々な意見があり、ありがたく感じており、今後の研究課題にする。

## 本多 俊 昭

[真 誠 会]



- ① 除雪対策について
- ② 農業振興策について

### 問

- ① ①市で行う除雪回数の基準等、除雪作業の基準は。  
②通学路の歩道除雪対策について、小型除雪機を各住民センターに配置したが、作業範囲の取り決めは。  
③除雪対象路線の拡大について、市道隠里・高屋敷線、大沢・手代内線を除雪対象路線に拡大すべきでないか。

- ② 米価下落に伴う市の対応について

### 答

- ① ①15cm以上の積雪が予想される場合、速やかに除雪に着手し厚さが10cm以下になるまで除雪する。除雪回数の基準は設けない。  
②市が除雪対象としていない歩道、生活道路を対象としている。  
③地域内の幹線市道除雪に目途が立ってから、市道の積雪の状況をみて対応することになる。
- ② 飼料米拡大を推進し水稻農家の所得確保と畜産農家の飼料確保を図り集落営農化、担い手の規模拡大による生産費低減を進めていきたい。

## 菅 野 明

[日本共産党二本松市議団]



- ① 二本松病院の現状について
- ② 米価暴落問題について

### 問

- ① 全国的な産科医不足のもとJCHO二本松病院について、  
①診療体制の縮小が進んでいるのでは。  
②市長は「出産できる病院存続」で取り組んできたが、国等への働きかけ、産科医確保の見通しなど病院との協議は。

- ② 「米作ってメシ食えねえ」の米価、  
①本市の今年産の米価暴落の影響額は。  
②本市独自の価格補てんなど米価対策の実施を。

### 答

- ① ①平日ほぼ全日診療の実施は、内科、外科、整形外科、泌尿器科。皮膚科・婦人科は週1~3回、小児科が従来週1回診療から本年4月より休診中で若干縮小傾向。  
②7月森少子化大臣に産科医確保の要望書提出。JCHO本部で代表者と意見交換し、「継続して検討したい」との回答。今後も病院や郡内各市村と連携し要望を続ける。
- ② ①個々の農家の出荷先が多岐にわたるなど、把握は困難。  
②市単独事業としての対策は困難。

## 安 齋 政 保

[市 政 会]



- ① 除染について

### 問

- ① 18才未満の宅地除染について  
①18才未満の住宅総数は。そのうち、除染した実数は。また、宅地内埋設した件数は。  
②宅地内埋設した除染物の仮置場への搬出は、いつから行うのか。  
③その予算は、どうするのか。



早く仮置き場へ

### 答

- ① ①平成24年度の状況で、戸建てとアパート等合わせて5,038世帯。戸建ての件数で除染実施世帯が3,886世帯で、敷地内保管が3,218世帯。  
②仮置場が確保された地区については平成27年度に仮置場への移送を行う計画。  
③事業に要する経費は、平成27年度予算に計上すべく事務を進めており、その財源は、全額、除染対策事業交付金で支弁されると考えている。

## 平 栗 征 雄

[市政刷新会議]



- ① スカイピアあだたらの保養館運営について
- ② 仮設住宅の供与期限と災害公営住宅の進捗状況について

### 問

- ① 健康増進を図るための、マッサージ器やヘルストロン設備等の健康・体力づくり設置の考えはあるか。



リニューアルとなった休憩室

- ② ①仮設住宅の供与期限の延長は。  
②災害公営住宅の進捗状況について（12月現在）

### 答

- ① 新しい健康増進を図る施設の整備については、指定管理者及び健康増進担当部局と協議していく。
- ② ①応急仮設住宅の敷地については避難者が23年6月から入居し、県からは、平成28年3月31日まで供与期間の延長通知があった。  
②根柄山地区内は、現在、造成設計・地質調査・建築設計が、石倉地区内は、測量・地質調査・造成設計が実施され、若宮と表地区内は、11月14日付で用地費・測量設計費の交付可能額通知を受けたところである。

## 浅 川 吉 寿

[あぶくま会]



- ① 教育委員会制度改革について
- ② 安達ヶ原地域の総合整備計画について

### 問

- ① 新制度により市長の介入により政治的中立が保てるか懸念があるかどうか。
- ② 市長は安達ヶ原ふるさと村、安達ヶ原公園とその周辺地域10haの整備計画について熱い思いがあったが、実現しうる壮大な構想があれば披露いただきたい。



リニューアルした安達ヶ原ふるさと村の屋内遊び場

### 答

- ① 総合教育会議で市長と協議・調整は行う。最終的な執行権限は教育委員会にあるので市長の介入はなく政治的中立は保たれる。
- ② 福祉ゾーン、歴史文化ゾーン、親子ふれあいゾーンとして整備を図ると同時に施設を利用したイベントの企画等、市民・観光客ともにつろげ、楽しむことができる管理運営を目指す。また、地元大平に設立された「安達ヶ原ふるさと村と堤防の景観を良くする会」に全面的協力し、彼岸花の里にする。

## 堀 籠 新 一

[真 誠 会]



- ① 市政運営について
- ② 原発事故災害について

### 問

- ① 合併10年、二本松市補助金の見直しについて、  
①防火用水施設整備補助金は。  
②生活用水確保に対する補助金は。
- ② ①平成27年度の除染計画は。  
②葉タバコの原因事故に伴う、農業用施設の除染対策は。  
③東京電力への一般会計に係る原子力災害損害賠償の請求額は。  
④現在までに賠償された金額は。  
⑤損害賠償について、今後市の対応策は。

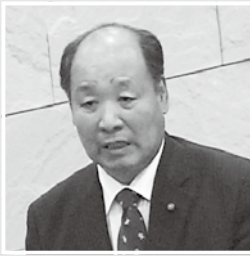
### 答

- ① ①現状の補助金により助成する。  
②補助金額の増額は、改善に向けて前向きに調整していく。
- ② ①店舗、空き家、小公園等の除染、併せて住宅敷地内に一時保管した除去土壌を仮置き場へ移動する。  
②生活圏内の除染終了後、試験栽培結果や空間線量等を考慮し、関係機関と協議を進めながら検討する。  
③3年分で9億8,043万3,481円。  
④未だ支払いには至っていない。  
⑤税の減収分、人件費等は引き続き県内自治体と連携し、強く求める。



## 深谷 勇吉

[真誠会]



- ①牛に与える粗飼料について
- ②キュウリの立枯病について

### 問

- ①搾乳牛に与える牧草で30ペクレル以上のものは補償の対象になるが30ペクレル以下は自主調整により出費を余儀なくされているが、
  - ①市は現状を把握しているか。
  - ②対策はあるのか。
- ②キュウリは稲作に次ぐ基幹作物であり立枯病は深刻な状況である。立枯病全体としての対策はあるのか。また、立枯病に効果がある薬はあるが、高価と聞く。市として補助などは考えられるか。

### 答

- ①①各農家により実施されている現状は確認している。
  - ②畜産農家には負担となっており、全農及び県酪農協同組合と今後の対応について協議する。
- ②栽培圃場の変更が有効であるが、カビ菌の一種である「ホモブシス根腐れ病」には薬剤投与が有効手段である。しかし、使用実績が少なく、残留農薬等の不安感があるとのことから、実証試験等も含めた総合的な対策を関係機関・団体等と協議を行い検討していく。

## 熊田 義春

[市政会]



- ①農業整備について
- ②農業委員会の今後の存続は

### 問

- ①①畜産、果樹、野菜、水稻の前年度対比は（平成24年度から平成25年度）。



市内の水田

- ②カメムシ防除対策で補助金支援はできないのか。

- ②農業委員会の今後の存続は。

### 答

- ①①みちのく安達農業協同組合の当管内の平成25年度販売額と前年対比で、畜産1,586,148千円で8.3%の増、果樹60,603千円、3.94%の減。野菜1,370,922千円、38.3%増。水稻は25年産米の一部が特別隔離対策米として買い上げられており、精算が済んでいない。
  - ②環境保全型農業の取組状況や養蚕等の現状から防除剤の使用規制地域見直しと補助事業を検討する。
- ②政府が打ち出した農業委員会改革の今後の動向を注視していく。

## 平 敏子

[日本共産党二本松市議団]



- ①市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例について
- ②介護保険制度について

### 問

- ①①今回提案されている条例の設備・運営基準は、現在実施されている内容と比べてどうか。
  - ②最低基準の向上の取り組みは。
  - ③職員の自己研鑽、知識技能の習得、維持向上等の環境整備、資質の向上の具体的取り組みは。
- ②①高齢者福祉計画の達成状況は。
  - ②地域包括支援センター、高齢福祉課の強化は。
  - ③地域生活圏は旧市町単位だけでなく、小学校・中学校区域での設定は。

### 答

- ①①内容が充実し質が向上する。
  - ②児童の数が1支援で40人以下となるよう、施設の拡張・増設を図る。学校休業日の開所時間は30分早めて7時30分とし、就労者の支援を図る。
  - ③各種研修会への参加、保育や遊びの技術的研修にも参加できるよう配慮し、資質向上の取組を実施、継続。
- ②①概ね計画通り実施している。
  - ②状況を判断しながら人的配置を含めた機能強化について検討していく。
  - ③各種事業のきめ細かいサービスができるよう旧市町にこだわらず検討。

## 菅野 寿雄

[市政会]



- 1 移川下流域に対する洪水被害防止対策について
- 2 二本松市優良牛導入事業について

### 問

- 1 ①県は平成25年8月5日の洪水の原因を流木による河川断面の縮小としているが、流木防止の対策は。  
②市は県に対して、浚渫（しゅんせつ）と土砂撤去を要望してきたが、協議は進んでいるのか。
- 2 ①現在、この事業は実施されていないが、いつから停止となっているのか。また停止に至った理由は。  
②対象農家（酪農家・肥育農家）への事業ニーズ調査を行うべきではないか。

### 答

- 1 ①県は、治山事業・砂防事業等多方面からの対応が必要であり、今後の検討課題であると回答した。  
②県に対して、安達東高校付近から田村市堺までの約10kmについて堆積土砂の撤去を要望している。
- 2 ①二本松市畜産振興連絡会において事業効果を検討、アンケート調査を踏まえた上で、平成23年度から事業を廃止した。  
②酪農の衰退に対する懸念と生産者のニーズ把握が必要との意見もあり、さらに検討して参りたい。

## 高橋 正弘

[あぶくま会]



- 1 イノシシ等の有害鳥獣対策について
- 2 農業振興と農地保全について

### 問

- 1 人の住まなくなった住宅、未耕作畑の増大によって有害鳥獣が増加している。イノシシ等の捕獲状況は。人的被害、農作物被害減少を図るための方策は。
- 2 中山間地域等直接支払い制度事業や人・農地プラン、農地・水・環境保全向上対策事業は継続するのか。集落機能の維持をどう図るのか。

### 答

- 1 イノシシの捕獲状況は、平成25年度が462頭、平成26年度は11月末現在ですでに360頭となっている。安達農業普及所、近隣市町村と連携を図り対応したい。
- 2 平成27年度から施行される「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」により日本型直接支払制度として継続される予定である。集落機能維持に係る諸問題の解決に向けて取り組む。

## 五十嵐 勝蔵

[真誠会]



- 1 学校・公園等埋設汚染土壌について
- 2 観光の振興について

### 問

- 1 学校・公園等埋設汚染土壌の搬出について伺う。
- 2 二本松提灯祭りの更なる振興について、「二本松提灯祭りの日程について」伺う。



二本松の提灯祭り

### 答

- 1 現在の市内仮置場には搬入できる容量がなく、また新たな仮置場を設置することは困難であり、総合的に判断して今の状態で管理を徹底し、今の埋設地で保管する。
- 2 二本松神社例大祭の日程への関与は特定宗教法人の宗教行為への干渉となり、市はこの協議に関与しない。祭礼関係団体や各字若連等のなかにも日程変更を求める声もあり、今後それらの声がどのように反映されていくか見守っていきたい。

## 佐藤 源市

[あぶくま会]



- 1 公共施設の使用について
- 2 空き校舎活用の見通し及び地域活性化について

### 問

- 1 ①住民センター等の年末年始における貸出しに関する条例改正は。
- ②公共施設の休館日が毎週あるが見直しをすべきと考えるが。



多く利用されている体育館

- 2 ①空き校舎活用による支援対策について。
- ②集落支援員、地域おこし協力隊の事業実態と次年度の方針は。

### 答

- 1 ①住民センター施設利用については貸し出すことを今後検討する。文化センターは委託業者との協議が必要で難しい。体育館は申請し、特に認める場合利用可能。
- ②規則等の改正に合わせ検討する。
- 2 ①地域振興を図る上で特に政策的に対応が可能な事業については、事業支援、活動支援という形で検討する必要がある。
- ②各行政区実態調査結果を分析し魅力ある地域づくりをバックアップし地域活性化を図る。

## 野地 久夫

[市政刷新会議]



- 1 安達駅周辺整備事業等推進について
- 2 安達支所・安達公民館及び安達支所周辺整備等について

### 問

- 1 4号国道へのアクセス道についての考え、轟川整備方針と整備事業主体の考え方について伺う。



護岸未整備の轟川(駅東)

- 2 安達地区子育て支援施設の新たな整備や公園緑地等の整備についての、安達支所周辺整備等について伺う。

### 答

- 1 東西線を延伸し、油井字大森越地内の市道安達駅・源八坂線へ接続し、国道4号バイパスへアクセス計画の見込み。轟川整備は県の事業となるが、計画断面はあるが、現時点で河川整備計画はない。
- 2 安達支所周辺は、安達地域の行政、教育、文化、保健福祉等の公共機能が集中している拠点である。子育て支援施設や公園等の整備など、総合的拠点整備について、次期長期総合計画策定の中で、早急に検討していく。

## 平塚 與志一

[無所属]



- 1 復興工業団地について
- 2 市長の政治指針について

### 問

- 1 合併時に残っていた本市の工業団地の箇所数と面積は。また現在の工業団地の残りはいくらか。

- 2 ①平成26年2月の除雪の反省とこれからの方針について(区長会及び消防団への要請が1週間も遅れたのはなぜか)。
- ②二本松をどのような街にするか。
- ③人口増及びシャッター街をなくすための施策は行っているのか。

### 答

- 1 小沢工業団地ほか2ヶ所で、約13haである。現在の工業団地の残りは2.2haである。
- 2 ①市民の安全安心のため地域と連携を図り迅速な除雪に努める。
- ②本市の街づくりは長期総合計画に基づき取組んできた。
- ③街中の活性化に向けた取り組みは保育料の助成や不妊治療費の拡充、定住促進のための補助の拡大、街中シャッター街の解消に向けては会議所・商工会と連携を強化し、環境の整備に努めてきた。



## 齋藤 広二

[日本共産党二本松市議団]



- ① 安達駅周辺整備事業について
- ② 原発事故等への市長の見解について

### 問

- ① ① 駅東開発は平成23年度着工、27年度末の完成見込みに変更はないか。また、駅ホームへのエレベーター設置の方針は。
- ② ① 県内10基廃炉はオール福島の願い、安倍政権はいまだに福島第二原発の廃炉を明言していないが、市長の見解は。  
② 全原発48基止まって1年3カ月。電力不足はおきていない。事故後国民の節電は原発13基分。「原発再稼働」「原発ゼロ」「原発輸出」についての市長の見解は。

### 答

- ① ① 全体事業費27億円で平成27年度末完成を目指してきたが、JRの業務が繁忙していることから、油王田踏切の歩道工事は28年度完了見込み。JRではエレベーター工事を東西自由通路工事に合わせては難しいとのことであるが、整備していただけるよう継続して協議していく。
- ② ① 県民、市民の感情を考えれば県内の原発は全廃すべき。  
② 国の政策に関することであり、また他の自治体が判断することで答弁は控える。

## 齋藤 賢一

[あぶくま会]



- ① 今後の市政運営について
- ② 政党の機関紙購読の実態について

### 問

- ① 市長就任1年を迎えた感想は。また、1市3町が合併して新二本松市が誕生して10年目になる。合併の効果の検証評価と10年目以降の二本松市建設のビジョンについて伺う。
- ② 公務員の政治活動は公務員法第36条で制限されているが、現在市役所内で特定の政党の機関紙を配布させ、購読し、集金に応じることは市役所市職員としての中立公平を欠き、地方公務員法に抵触しないのか。

### 答

- ① 原発事故からの復旧を優先に行政に取り組んだ。合併の評価は合併のスケールメリットを活かし経常経費の削減が図られたこと、合併特例債を活用し施設整備が図られた。今後は「地方創生、まち、ひと、仕事」の時代。地域の特色を生かして地域戦略・施策を進める。
- ② 庁舎内で購読されている政党機関紙は職員が個人的に購読していること、配布は組織的、計画的、継続的でないので公務の公正は確保されていると認識している。

## 12月定例会賛否一覧

※これ以外の案件等は全会一致で可決されています。

議案名	議員名	議決結果	賛成:反対	本多	佐藤	石井	加藤	本多	熊田	小野	安齋	深谷	菅野	堀籠	佐藤	菅野	小林	浅川	平	野地	平塚	齋藤	佐藤	齋藤	齋藤	高橋	五十嵐	平栗	
				勝実	運喜	馨	建也	俊昭	義春	利美	政保	勇吉	寿雄	新一	有	明	均	吉寿	敏子	久夫	志一	広二	源市	賢一	周一	正弘	勝蔵	征雄	
議案第104号 二本松市議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例制定について	原案可決	17:8		○	○	○	○	○	●	○	●	○	●	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第105号 二本松市常勤の特別職の給与の支給等に関する条例及び二本松市教育委員会教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例制定について	原案可決	20:5		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第124号 平成26年度二本松市一般会計補正予算	原案可決	22:3		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※○は賛成、●は反対。 ※議長(中田涼介)は採決に加わりません。